提案 3

世代を結ぶ

- 介護予防施設と保育園の複合施設 -

現代の社会において、核家族化が進み同世代交流が中心となり、特に子どもと高齢者が交流する機会は非常に少ないと言えます。かつて見られた地域交流は、同世代の交流が中心になると同時に薄れ、他世代と交流する機会はより少なくなっています。私たちは、「世代を結ぶ」をテーマに保育園と介護予防施設の複合施設を計画することで、世代間交流のきっかけとなる場、そして子どもと高齢者を中心に地域全体を巻き込んだ交流が生まれる場を提案します。

この施設は、今回提案する場所のみでしか成り立たない建物にするのではなく、どこの場所でもソフト面や空間等については同条件の下、その場所にあった建築を提案することを念頭に計画しました。建築を計画する基本的な要素として、私たちは８つの提案を行います。この８つに＋αすることで、地域性を重視した建物を計画します。

01. いえ空間

この施設を自分の家に連続する空間として提案します。

昔ながらの縁側や土間をイメージした空間は、住宅と地域とを結ぶ曖昧な空間です。建物内部は土間を基本とし、各部屋は土間から 30 センチ高くなっているため、くつを脱いで上がります。

02. みち空間

１つ１つの要素をみちと呼ばれる空間で結びます。

それぞれの要素を結ぶこのみち空間は、人が溜まり交流が生まれる場です。

日常の何気ない風景が人を、建物を、地域を結んで行きます。

いえ空間 / みち空間

03. ゆるやかにつなぐ

集まる目的を特定しない、自然に地域の人が訪れる場所、そんな場所であるために、地域と敷地には境界線を作らず、地域と本施設をゆるやかにつなぎます。

模型写真

04. 減築と増築

減築と増築とは、地域と共に変化する建築の提案です。社会における少子高齢化、人口減少、生産世代の就労形態・環境の変化は、未来の建築形態に大きな影響を与えます。移り変わる時間の中で、社会も変化し、建築に求められるものも変わる中で、部分的に構成が変化し順応することで、時代に合った空間構成を作り出します。

展示室

05. あそび、まなび、創造する

子どもたちは、普段のあそびの中から様々なことえをまなび、そして大人では考えつかないようなことを思いつき行動したりします。

この建築は、子どもたちが生活する全ての空間が遊びの場であり、子どもたちは様々な場で興味を持ち、行動します。

軸となるみちでは、様々な場面に出会い、成長することでしょう。

06. ほのぼのとした日常

建築は新しくなっても、子供たちが無邪気に遊び、お年寄りと会話を楽しむ姿がいつもそこにある。そんな風景を作り出します。

07. 食べる楽しさを知る

敷地内の畑で野菜を栽培することで、食物の育つ過程をみんなで観察し、農作業体験を通して「食」に関する知識と農業への興味を持つ場をつくります。一緒に作業することで、農業に関する高齢者の経験豊かな知識を学ぶことができます。

園庭

08. 子どもと高齢者の防災サポート拠点

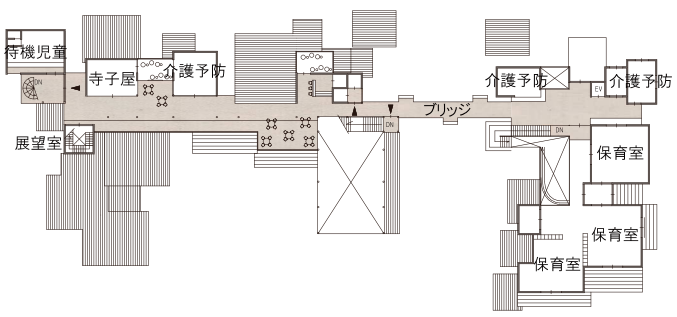
震災時の避難生活は、だれにとっても負担が大きいものとなりますが、特に子どもや高齢者にとっては、体や心のサポートが重要になります。

この施設では、子どもと高齢者を中心とした施設だからこそ、その様な状況に対応出来る環境を整えておきます。

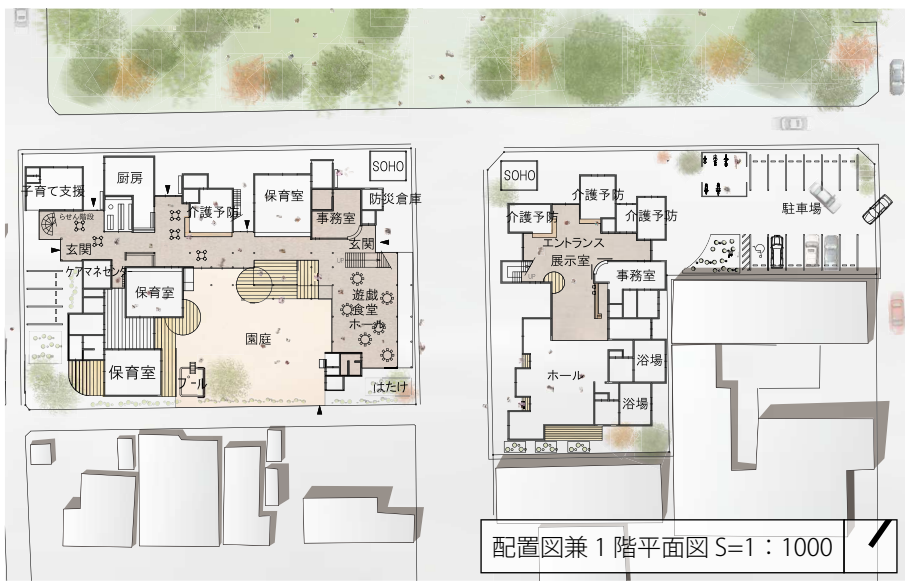
+α. 中央を通る道

敷地を縦断する中央の道は自転車歩行者専用道路になっており、駅より南に住んでいる人などが多く利用することからこの道を通る人の溜まりの場を設けると同時に、メインの出入り口を中央の道に向かって配置しました。

２つの建物の２階レベルにみち（ブリッジ）を設け、保育園機能は道に面するようにホールを、介護予防機能はくつろぐ空間を配置し、道を挟んで見守るような配置計画とします。道を通る人にとっても、中の様子が分かりやすく親しみを持ってもらえると考えています。２階に架かるみちは、子どもたちが元気に駆けまわり、明るい声が響きわたります。



2 階平面図 S=1：1000



配置図兼 1 階平面図 S=1：1000